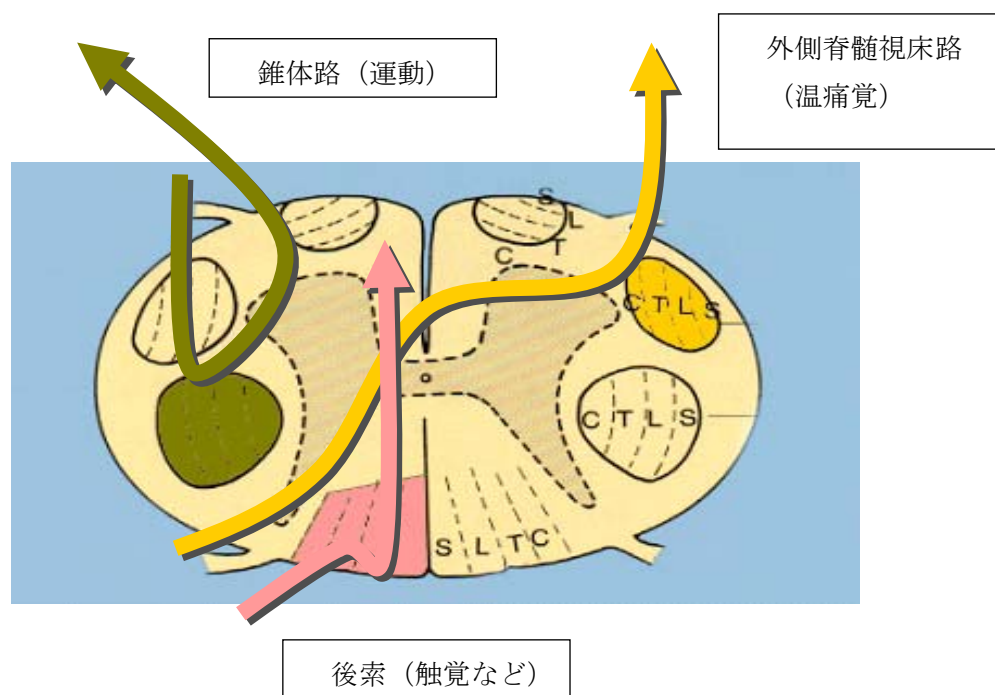


## 脊髄内の神経伝導路

脊髄というのは、親指くらいの太さです。左右が12mmくらい。これが8~9mmくらいと小さなものなのですが、神経の束がぎっしり詰まっています。ただ、ランダムに詰まっているのではなくて通っている場所が決まっています。いろんな神経の束が通っているのですが、診断学的に重要なのは、2つですね。感覚の線維がどこを通るか、運動の線維がどこを通るかということです。



まず、感覚の線維は先ほど言ったように後根という後ろの方から入ってってきます。感覚の種類はいっぱいあります。熱いとか冷たい、触っているのがわかる感覚、痛みがわかる感覚。痛みも実はいろんな痛みがあるのです。それによって、通っている神経の経路が違います。特に後索といわれ、例えば左側だとすると、左側から入ってきて同じ側の後索を通っていくのは、触覚といわれる、たとえばこのように触るとボタンが膨らんでいるのがわかって (ポインターのボタンを示しながら)、目で見なくても押すとオレンジ色のポイントがつけられるなというのわかるのは、後索系がしっかりしているからなんですね。後索は同側を上がっていきます。ところが温痛覚、痛みや冷たいとか熱いといわれる感覚、例えばお風呂に入ったときに左足で入って見たらお風呂が全然熱くなかった、ところが右足で入って見たら、ものすごく熱かったということがああるんですね。それは温痛覚の障害なんです。温痛覚というのは反対側を通ってきます。だから脊髄のやられ方によっては、右側の触覚がやられて、左側の温痛覚がやられてとかそういう奇妙なことが起こります。そうすると、どこのレベルでどういうふうにやられているかというのが、先ほどの神経レ

ベル、しびれとか筋肉とあわせて診断がつくようになります。これが感覚ですね。

運動路というのは横を通っています。頭からずーっと降りてきて横のところを通って、前角というところを通って前根を通って前のほうにいった筋肉のほうに行くということになります。